

開講期間	授業形態	単位数	科目必選区分
前期	演習	2単位	
曜日時限			
前期： 曜無時無			
配当学科・学年			
文1、教育1、人間1			
担当教員			
植木 是、岡島 克樹、小林 末季代、松原 裕一			
日DP4、歴DP5	幼DP5、学DP5、特DP5	人DP3、スDP1・2	
添付ファイル			

授業テーマ	SDGs（持続可能な開発目標）を参照しつつ、グループで大学近隣地域の課題を考え、それを解決・緩和する取組を企画することをつうじて、地球的視点をもって（グローバルに）地域（ローカル）を考える態度、地域社会の一員であるという当事者意識と社会人・市民として求められる基礎力を養う。
講義概要	今日の社会は急速に変化し、知識の賞味期限がこれまでになく早く訪れる時代が到来している。そのような社会にあつては、（過去や現在の研究者の研究成果である「専門知識」を学ぶことはなお大事なことであるが、同時に）自分で課題を探し、それをどのように解決するのか、他人と協働しながら考え抜き実施していく「社会人基礎力」あるいは「ジェネリックスキル」と呼ばれる技能がますます求められるようになってきている。 また、現在、世界は、日本を含め、環境的にも、社会的にも、さらには経済的にも「つづかない」状態にある（たとえば、地球温暖化・気候変動により毎年台風が大型化する、プラスチックの過度使用により廃棄が追いつかず世界の海はとりかえしがつかないくらい汚染されている。地域社会は、人口減少と高齢化により、これまで取り組んできた地域の取組が行えなくなりつつあり、仕事も、非正規雇用化・不安定化し、そのなかで健康を害することが頻発している）。そうしたなか、つづかなくなってきた世界をなんとかつづかせるための目標（SDGs）が設定され、世界中でこの目標を達成しようとする取組が行われている。 そのため、本講は、アクティブラーニングとして授業展開し、（1）SDGsを学びながら、（2）「考える」ということはどういうことなのかを改めて考える講義を行う。また、（3）実際にグループで考え抜くという経験をする機会を提供する。より具体的には、テキストにあるフォーマットにしたがって、SDGsを参照しながら、地域社会の課題を考え、それを解決・緩和する取組案をグループで企画し、結果を発表し、コメントを得て、また考え抜くというプロセスを体験する。
到達目標	(1) 社会人基礎力、とくに「考える力」とはどのような要素から成り立ち、どうすれば向上させることができるのかを理解できる。 (2) 「よい」企画とは何かを理解して、それにもとづいて企画を立て、発表することができる。 (3) 自身の社会人基礎力について自己評価し、今後どのように向上させていくのか、根拠にもとづいて考えることができる。
評価方法	(1) 授業2日目に行う確認テスト (20%) (2) 授業3日目に行うグループ発表 (30%) (3) 個人レポート (50%)
フィードバックの方法	・本講では、学生のグループワークが多くあるが、その際には教員は机間指導を行うとともに、必要に応じて、学生からの質問や学生が直面している課題を教室全体で共有する等する。 ・授業内の小テストは、その場で採点し、多く誤りが出た箇所があれば、教室全体で再度解説を行う。 ・レポートについては、ルーブリックを作成し、それにもとづいて採点し、結果を学生と共有することで、どこが自分のレポートの弱点であるかが理解できるように促す。
評価基準	(1) SDGsの基本知識や、社会人基礎力、とくに「考える力」の重要性や構成要素について問う穴埋め問題の正解の数 (2) 「よい」発表に関するルーブリックにもとづく採点（評価基準は①日本語の適切さ、②構成（全体・ラベル）、③内容（ユニークさ・ニーズとの合致・現実性・主張の根拠）であるが、秀・優・良・可の細かい区別については授業中に配布するルーブリックを参照してください） (3) 個人レポートでは、本講で経験したこと（概要）、そこから得た学び（とくに自分の社会人基礎力についての学び）、今後、どのように成長させていくか、その計画を書いてもらうが、その評価については「よい」レポートに関するルーブリックにもとづく採点（評価基準は①日本語の適切さ、②構成（全体・ラベル）、③内容（深さ・広さ・ルールの遵守）であるが、優・秀・良・可の細かい区別については授業中に配布するルーブリックを参照してください）
テキスト	受講者には文部科学省「平成20年度戦略的・大学連携支援事業」選定「実践力のある地域人材の輩出」プロジェクト共同キャリア教育・FD委員会編（2010）『パワーアップ・プラクティス講座 ワークブック こんな地域 ほしかってん』を無料配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
履修上の注意	(1) 本講は集中講座として開講され、6月1日（土）に1回目から5回目を、6月15日（土）～6月16日（日）に6回目から15回目を実施する。 (2) 本講には定員がある。定員を超過した場合、抽選を行うことがある。抽選を行って選抜したにもかかわらず、初回の授業すら欠席する学生がいる。抽選により受講できなくなった学生の気持ちを考えて、目的意識をもって受講するようにしてください。
準備学習＜予習・復習の時間・内容＞	2単位の修得には、2時間×15回の授業の他に合計60時間（4時間×15回）の事前事後の学習が必要である。45時間の事前学習（予習）と15時間の事後学習（復習）を目安に学習に取り組んで下さい。とくにこの授業では、とくに10月5日に課題を出すことがあり、その課題の結果は10月19日～20日の合宿研修に活かすので、自宅で十分な時間に取り組むようにしてください。

オフィスアワー等	本講は集中講義であり、質問については、授業と授業のあいだにある休憩時間に対応することもできるが、ほか、以下の時間でもうけつける。 植木（火曜日3限目）・岡島（木曜日1限目）・小林（金曜4限目）・松原（金曜日1限目）
備考・メッセージ	(1)本講は、講義もあるが、グループワークを軸として展開されるものである。グループに対して一人ひとりが持つ役割や責任を意識しながら講座に臨んでください。 (2)本講にはその発展編として「PP講座Ⅱ（思考編）」という講座がある。この講座はさらに論理的思考力を磨くチャンスを提供する目的で開講され、本学も加盟する南大阪地域大学コンソーシアムを構成するさまざまな大学の学生と一緒に学ぶ科目である。本学の教員も講師陣にはいって指導を担当しているので、ぜひ安心して参加するようにしてください。
科目ナンバリング	

授業計画						
回数	授業形態	担当教員	授業内容	到達目標		
1	演習	岡島 植木	オリエンテーション・ 「子育て資源の最近の動 向」と題するレクチャー <6月1日>	本講の学習到達目標や意義、スケジュールが理解できる。		
2	演習	岡島 植木	SDGsとは何か 班分け・アイスブレイク <6月1日>	持続可能な開発目標（SDGs）とは何か、その基本的な知識を得ることができる。 ともに学ぶ仲間を知り、学習共同体の基礎をつくることできる。		
3	演習	岡島 植木	大学近隣地域を学ぶ (1) <6月1日>	大学近隣地域で地域活性化に取り組んでこられた方からのレクチャーを聴き、地域の歴史・課題・過去の取組について基本的な知識を得ることが出来る。		
4	演習	植木 小林	大学近隣地域を学ぶ(2) <6月1日>	実際に、大学近隣地域のまちあるきを行うことをつうじて、地域に関する基本的な情報をより深く理解するとともに、自分たちで課題を探す。		
5	演習	植木 小林	大学近隣地域を学ぶ(2) <6月1日>	実際に、大学近隣地域のまちあるきを行うことをつうじて、地域に関する基本的な情報をより深く理解するとともに、自分たちで課題を探す。		
6	演習	岡島 松原	徹底分析シートへの記入 <6月15日>	地域の課題とはどのようなものか、その全体像を得る。 チームでコミュニケーションをとり、1つのことに取り組むために必要なものとはなにかが理解できる。		
7	演習	岡島 松原	徹底分析シート・企画 シートへの記入 <6月15日>	地域の課題とはどのようなものか、その全体像を得る。 チームでコミュニケーションをとり、1つのことに取り組むために必要なものとはなにかが理解できる。		
8	演習	岡島 松原	「「考える」とは何か」 と題するレクチャー 企画シートへの記入 <6月15日>	論理的思考とはどのようなものか、「分ける」「広げる」「確かめる」という3要素を踏まえ、簡潔に説明できる。 テストを受けることをつうじて、SDGsの概要や、本講の目的となっている社会人基礎力等について、基本的な知識をより確固なものにする。 地域課題の解決・緩和のための取組を、さまざまな事項に注意しながら、企画することができる。		
9	演習	岡島 松原	企画シートへの記入 プレゼンテーションシ ートへの記入 <6月15日>	地域課題の解決・緩和のための取組を、さまざまな事項に注意しながら、企画することができる。 チームでコミュニケーションをとり、1つのことに取り組むために必要なものとはなにかが理解できる。 発表に必要な要素とはなにかが実感をもって理解できる。		
10	演習	岡島 松原	プレゼンテーションシ ートへの記入 企画案の発表・教員コメ ント <6月15日>	発表に必要な要素とはなにかが実感をもって理解できる。 チームでコミュニケーションをとり、1つのことに取り組むために必要なものとはなにかが理解できる。		
11	演習	岡島 植木 小林 松原	パワーポイント改善 <6月16日>	発表に必要な要素とはなにかが実感をもって理解できる。 パワーポイントによる発表技術が向上する。		

1 2	演習	岡島 植木 小林 松原	発表練習会 教員コメントの付与 <6月16日>	パワーポイントによるよい発表とはどういうものか、知識を獲得できる。		
1 3	演習	岡島 植木 小林 松原	最終発表会 <6月16日>	地域の住民の方々・市役所職員がおられる前でパワーポイントによる発表を行うことをつうじて、発表技術が向上する。 チームでコミュニケーションをとり、1つのことに取り組むために必要なものとはなにかが理解できる。		
1 4	演習	岡島 植木 小林 松原	ふりかえり <6月16日>	アクティブラーニングにおけるふりかえり（リフレクション）の重要性について認識を深めるとともに、そのやり方について基本的な知識を得ることができる。		
1 5	演習	岡島 植木 小林 松原	レポート作成 <6月16日>	自身が本講全体の学習到達目標をどのていど達成できたのか、より明確に認識できる。 今後、大学における学びの設計に本講義での経験を生かせるよう計画できる。		

授業方法

	学習方法	場所	教員数(補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
	演習	教室	4		90分×15